

令和2年7月27日（問1～22）

令和2年8月14日（問23～27）

コロナと闘う応援村「77億人えがおプロジェクト」基本想定問答集

問1 応援村とは何か。

答

「応援村」とは、全国各地の様々な地域で懸命に生きる人たちを応援するプロジェクトである。地域活性化・コミュニティの再生（人を孤独にしない）という応援村の社会的使命と役割を果たすため、自治体首長が中心となり「コロナと闘う応援村」実行委員会を組成（令和2年5月18日）。同実行委員の松任谷正隆氏・小山薫堂氏と賛同自治体（鈴木三重県知事・鈴木浜松市長・門川京都市長等）が中心となり、公民連携「77億人えがおプロジェクト」など具体的な取組を推進している。

問2 77億人えがおプロジェクトとは何か。

答

「ソーシャルディスタンス」で物理的距離が生じ、人と人がすれ違う時、なんだか怪訝な顔をしながらすれ違う日々。そんな、「新しい日常」で生じてしまった心の距離を埋めるため、子どもたちと一緒に、笑顔を増やすプロジェクト。

『ソーシャルディスタンスで離れた距離だけ、笑顔で』

この言葉をキャッチコピーに、未来を担う子どもたちの沢山の笑顔、歌と共に未来へ届ける。

具体的には、次の取組を実施する。

- ・子どもたちが笑顔のイラストを描く（例えば、自分の笑っている顔など）。
- ・そのイラストを、応援村公式ソング「守ってあげたい」（作詞・作曲 松任谷由実）と共に編集し、一般公開する（YouTube、Instagram、Twitter等）。
- ・応援村実行委員及びプロジェクト賛同者による「動画リレー」等の公開を通じて、プロジェクトの思い（願い）を伝える。※動画リレーは秋頃開始予定。詳細は別途周知。

問3 主催はどこか。

答

主催：「コロナと闘う応援村」実行委員会

後援：みずほ銀行 J Coin-Pay（関連：問21・問22）

問4 発案した松任谷正隆さんは、応援村とどういう関係か。

答

松任谷正隆さんは、応援村実行委員の一人。5月に放送された「小山薫堂 東京会議」（BSフ

ジ) 収録内で「コロナと闘う応援村」を命名。5月18日実行委員会立ち上げの時から実行委員として参画し、「コロナと闘う応援村」の中心メンバーとして企画立案に携わる。

問5 松任谷正隆さんの意図は。

答

第2回応援村首長説明会（令和2年7月18日）における松任谷正隆委員挨拶において、その意図及び発案のきっかけが語られた。

（以下、松任谷正隆委員挨拶から）

世の中、半分の人には、団結しよう、コロナと闘おうと思っている。そして、残り半分は、おそらく考える余裕もない人、あるいは自分の利益を考えている人のように思う。

僕は、前者 半分の人たちに伝えたいことがある。

今、ダメだと言われているスキンシップや触れ合いは、どんなわだかまりも一発で取ってしまう力がある。それができなくなるということ。それに代わるものを、一時的なものであれ、作り上げるにはこれまでの何倍もの努力が必要になると思う。

あるテレビ番組で、子ども同士が近づいていると、「危ないよ」と先生が声を掛ける場面があった。僕はこれを見て危機感を抱いた。今の子どもたちは、他人を「危ないもの」と思って育てていくのだろうか。

子どもたちに、まず何らかの働きかけができないだろうか。子どもたちと一緒に、スキンシップのできない関係を乗り越える「何か」を作れないだろうか。それがスタート。

すれ違う人は敵じゃない。怖いものじゃない。

本来、長期的な、時間のかかる話だとは思いますが、今、すぐに子どもたちにできることをやりたい。

僕は、そう思い、応援村事務局に連絡をしました。

「応援村」と初めて出逢ったとき、フットワークの軽い動きができる場だと感じました。

「77億人えがおプロジェクト」は、小山薫堂委員のネーミングです。是非、ここにお集まりの皆さんと、子どもたちのために何か始められたら、そんな思いです。

問6 「77億人えがおプロジェクト」。このプロジェクト名を付けた経緯は。

答

77億人は世界の人口（2019年）。日本国内はもとより、国の垣根を越えてこのプロジェクトの思いが広がるようにという願いから。命名は、小山薫堂委員。

問7 どの自治体がこのプロジェクトを実施するのか。

答

次の 24 自治体で実施が可能。※参画自治体の正確な情報は、8 月中調査予定

●応援村参画自治体（23 自治体）

【三重県、渋谷区、浜松市、京都市、福岡市、熊本市、山形市、南陽市、三条市、南砺市、金沢市、須坂市、茅野市、御代田町、大東市、下関市、東かがわ市、久留米市、古賀市、武雄市、別府市、石垣市】

●協力自治体（応援村大使「くまモン」の熊本県）

令和 2 年 7 月豪雨被災地である【熊本県内の自治体】でも実施調整中。

なお、民間団体（応援村パートナー企業等）も実施予定。

問8 個人情報の取扱いはどのようにするのか。

答

各自治体において個人情報の取扱い及び管理を行う。

問9 参加費用はかかるのか。

答

応募に係る参加費用は 0 円。

問10 子どもたちへはどのようなルートで呼びかけるのか？

答

各自治体から教育委員会又は福祉部局等を通じて子どもたちへ呼びかけを行う。周知方法やルートについて一律に定めることはせず、各自治体の規模や実情に応じて判断していただくこととしている。

※参考までに、対象となる子どもの例としては次のとおり（自治体向け実施要領から抜粋）。

- ・小学生（主に低学年を想定）
- ・幼稚園生
- ・保育園児
- ・障がい児通所・入所サービスを利用する子ども
- ・学童保育を利用する子ども

<備考>

- ・主に 10 歳未満の子どもを想定しておりますが、年齢制限はありません。参加したい子どもは誰でも。
- ・行政域内一律に声かけをしてもよいですし、指定校（園）などを決めていただいても構いません。
- ・例えば、「学童保育のみに働きかける」などでも構いません。
- ・どこの所属する子どもに声を掛けるか、声を掛けた子どもたち全員参加か希望者参加か等、細かな方法は各自治体にお任せします。
- ・ただし、作品を提出した子どもの把握は行ってください。12 月頃、予算の範囲内でプレゼント企画の実施を考えています。*応募フォームを利用した場合は、フォームから一覧表作成が可

能です。

問11 本プロジェクトを実施できるのは応援村参画自治体だけか。

答

民間団体（応援村パートナー企業等）及び趣旨に賛同する自治体は開催することができる。ただし、応援村事務局へ届出が必要。

問12 えがおイラスト募集の期間は。

答

8月1日～8月31日。

問13 えがおイラスト公開はいつか。

答

秋頃（11月頃）を予定している。

※応募数などに応じてスケジュールを前後する可能性があるため、現時点では「秋頃」としかお伝えできない。

なお、イラスト公開日等の情報は、応援村公式ホームページ（応援村公式 HP <https://ouen-mura.homes>）及び「応援村通信」にてお知らせする予定。

*「応援村通信」配信登録はこちら⇒<https://ouen-mura.homes/inquiry-kd>

問14 現時点のスケジュールは？

答

7月18日（土）第2回応援村首長説明会

7月20日（月）～ 各自治体内調整（※実際は、7/3から事前調整開始可能）

7月22日（水）プロジェクト概要資料（ちらし）・実施要領・全体スケジュールをメール送付

7月27日（月）想定問答集をメール送付

8月1日（土）～8月31日（月）イラスト募集期間

*8月6日（木）・7日（金）応募フォームの配信テスト

*8月8日（土）応募フォーム利用開始（予定）

9月1日（火）～9月15日（火）自治体から応援村事務局へデータ提出

*応募フォームを利用した場合は、自治体から応援村事務局へデータ提出不要

9月15日（火）～10月末日 イラスト公開準備（動画等制作）

10月頃 イラスト公開の時期や方法について周知（応援村ホームページ及び「応援村通信」内）

*応援村公式 HP <https://ouen-mura.homes>

*「応援村通信」配信登録はこちら⇒<https://ouen-mura.homes/inquiry-kd>

11月頃 「77億人えがおプロジェクト」イラスト公開

12月頃 プレゼント企画実施（プレゼント内容は予算の範囲内で検討中）

※ただし、スケジュールは変更する場合があります。

問15 動画は誰が出演するのか。

答

本プロジェクト趣旨に賛同する人々。特に、アーティストや文化人等各界を代表する方々の出演を検討している。

問16 子どものイラストは全て公開されるのか。

答

全て公開する。Instagram や Facebook 等を活用したイラストの公開だけでなく、一部のイラストは応援村公式ソング「守ってあげたい」（作詞・作曲 松任谷由実）に載せた動画編集も行い公開する予定。

問17 公開してほしいくない子どもはどうするのか。

答

応募イラストは全て公開するため、公開を望まないイラストはデータ送付しないことをお願いしたい。

問18 保護者が協力しない子どもは。

答

問 23 参照

問19 参加した子どもへプレゼントとは、誰に（全員に？）・何を・どうやってプレゼントするのか。

予算は？

答

イラストを応募した子どもたち全員にプレゼントを贈りたいと考えている。ただし、イラストの応募数や賛同者数・寄付額等が現時点では明確ではないため、プレゼント企画の詳細発表は秋以降にしたいと考えている。

プレゼント等の費用は、本プロジェクトに賛同する人たちの寄附金を充てたいと考えている。

問20 なぜ、「守ってあげたい」（作詞・作曲 松任谷由実）がこのプロジェクトの歌として選ばれた

のか。また、なぜ応援村全体の公式ソングなのか。

答

「守ってあげたい」の歌詞「You Don't Have To Worry」と、本プロジェクトの願い（子どもたち、そして社会へのメッセージ）が重なったこと。そして、歌の力で本プロジェクトを広く普及させたいと願う松任谷正隆委員の思いも受け、「守ってあげたい」が本プロジェクトソングに決定した。

また、本プロジェクトは、「コロナと闘う応援村」の社会的使命（地域活性化・コミュニティの再生（人を孤独にしない））を具現化した第1弾の取組であり、非常に重要な位置づけにあることを鑑み、「コロナと闘う応援村」全体の公式ソングを「守ってあげたい」とすることについて、松任谷正隆委員の賛同も得て、実行委員会総意の元、決定するに至った。

問21 「後援 みずほ銀行」とあるが、みずほ銀行はどういう関係か。また、みずほ銀行のJ Coin-

Pay は、応援村とどのような関係があるか。

答

みずほ銀行（頭取：藤原弘治）は、「コロナと闘う応援村」の重要なパートナー企業の1つである。本プロジェクトにおいて、みずほ銀行が有する全国の地銀との強力なネットワーク及びみずほ銀行が提供するQRコードを活用したスマホ決済サービス『J-Coin Pay』アプリを活用した募金事業（ステイホームしながら非接触型の「応援の仕方」を広めることを目的）との連携を予定。

※『J-Coin Pay』は、送る、送ってもらう、支払うというお金に関する様々な行為がスマホ上で完結でき、全国の参加金融機関の預金口座との入出金についてもスマホ上のアプリで行えるサービスである。

問22 5月18日付けのプレスリリース資料にある「J Coin-Pay（株式会社みずほ銀行）との連携・

「コロナと闘う応援村」への募金者「福引き」企画も実施するのか？「えがおプロジェクト」とは別立てか？

答

福引き企画とえがおプロジェクトは一つの流れで実施する予定である。したがって、福引き企画は、当初予定していた時期（7月末以降）には行わず、秋から冬にかけて実施する予定。詳細は、決定次第、応援村公式ホームページ（応援村公式HP <https://ouen-mura.homes>）及び「応援村通信」にてお知らせする予定。

* 「応援村通信」配信登録はこちら⇒<https://ouen-mura.homes/inquiry-kd>

問23 保護者の同意を得なくとも、子どもの意思だけで本プロジェクトに参加できるのか？

答

「応募」には一定の法律行為が伴うものと考えられる（例えば、応募作品の著作権の移転（譲渡）や利用許諾、応募に伴う諸条件への同意、応募作品の返還をしないことへの同意、本人の画像の撮影や使用への同意）。そのため、親権者の同意は必要と思料。広報用のチラシに「親の同意を得たものとみなします」との一文を入れるだけでは、親権者の同意があったことにはならないため、親権者から応募していただく形が最も安全であると思料。

※民法上、法律行為を単独で有効に行うための意思能力（判断能力）を持たない人（一般に10歳程度以下とされています。）の意思表示は、親権者（いなければ後見人）の同意か代理が無ければ無効とされています（民法第3条の2ほか）。

問24 学校の活動の一環として、学校経由で応募する場合は如何に。

答

学校等の活動の一環として学校等経由で応募する場合、保護者への諸条件（イラストがどのように使われるかや返還しないという内容等）の伝達や同意の取得は、学校側の従来のやり方で実施可能と思料（絵画コンクールや読書感想文コンクール等に、学校を通じて応募する場合と同じ）。

問25 例えば、ミッキーマウスの絵を描いたら、著作権法上問題あるか？

答

私的に描くこと自体は自由にできるが、ネット上その他で公開する行為は、著作権侵害になる可能性があり、これは公開した主体の責任となる。その意味では、著作権侵害になるおそれがあるものや、可能性は低いとは思いますが万一、特定の他人の肖像と分かるようなものは、権利者の許諾が得られない限り、公開対象から外さざるを得ないと思料。

問26 子どもたちが描いたイラストの著作権は？

答

個々の作品の著作者は描いた個々の子供であるので、それぞれに著作権が帰属している。その利用には、著作権の移転又は利用許諾が必要。応募フォームは、これを条件として明記し、同意の上で応募していただく形を取っている。

問27 12月頃のプレゼントは、必ず実施すると言っても良いか。

答

お見込みのとおり。

ただし、12月頃の社会情勢（新型コロナの感染状況、子どもたちがその時に何を必要としているのか等）について現時点では予測ができないこと。さらに、プレゼントに係る規模感（人数・予算）が未確定であること。本プロジェクトを実施しながら、当該プレゼントに係るスポンサー企業や募金等を通じた資金調達を模索していること。以上の実情を鑑み、明確な情報として周知できるまでは、プレゼントに重きをおく広報は控えていただいた方がよいと思料。